



学校だより

西寺尾第二小学校
1月
令和5年12月22日



よいお年を!

校長 宮崎 里子

例年になく暖かい日が続く12月ですが、今朝は冷え込みが厳しく感じました。季節は確実に冬に様変わりしています。12月16日土曜日にはたくさんの保護者の皆様・地域の皆様に見守られて、子どもたちの「おひさまコンサート」が行われました。ご来場いただきました皆様、ありがとうございます。子どもたちの緊張する様子や満足気な顔に出会えましたでしょうか。音楽を通して心がつながり合う様子が伝わりましたでしょうか。曲紹介を行った児童の日記には「言い終わって後ろを向いて、ニヤニヤしちゃった。」と書いてありました。子どもってなんてかわいいのでしょうか。

さて、コンサートが終わった後の給食の時間、とあるクラスの前を通りかかった時のこと。「校長先生、あのね!」子どもたちが話しかけてきました。「あのね、コンサートの時、先生泣いちゃったんだよ!」「え、先生泣いちゃったの?」「そう!」子どもたちが嬉しそうに報告します。みると、当の担任の先生は、黙って下を向いて少し恥ずかしそうな顔で給食を食べているのです。子どもたちのなんともいえない、「してやっつりの顔」とは対照的で、ああ、ここに温かい学級があると思うと、心がふるえました。

子どもたちががんばる姿は私たち職員一同にとってかけがえのない宝物です。私の教員人生でも子どもの「できた、わかった、やった!」の誇らしげに鼻を膨らました顔に出会えた時は、ガッツポーズをしたくなかったものでした。教員だけではありません、学校の運営に欠かせない全職員がいつも、「すべては子どもたちのために」という気持ちで働いています。

しかし、今改めて思うのは、「子どもたちのために」働くことで、私たち大人は仕事を通して、自己実現をしているのだということです。いい先生になりたい、仕事を通して自分を高めたい。子どもたちの存在は「未来」そのものです。私たちは「未来」に携わる仕事をしている自負があります。「未来を拓く子どもたち」を育てることで、大人である私たちも自己有用感をもたせてもらっていることに気がきます。

かくいう「未来」は困難にも満ち、予測不可能である現況に於いて、私たちはこれからどんな力をつけたいのでしょうか。

現在注目されている「非認知能力」と呼ばれる力は「認知能力」(学力検査や知能検査で測定される力)に対して自分を大切に、高めようとする力、人とうまくやっていく「認知能力以外の力」のことを指します。横浜市では「非認知能力」の中の「メタ認知」「知的好奇心」「知的謙虚さ」「共感性」これら4点に着目をして、学力との相関性を検証する研究が行われています。点数化することが難しいこれらの能力ですが、自己を高め、円滑な人間関係を築く「未来を拓く力」であることは間違いありません。「おひさまコンサート」の学習に取り組む中、音楽を通して子どもたちはこれらの力を伸ばそうと試行錯誤する姿がありました。子どもたち、私たち大人も互いにに関わり合い、高め合って今と未来を生きていきたいと思っています。

結びに。「よいお年を」という言葉は、子どもどころ「残りの本年もよい年をお過ごしください。」だと思いましたが、ずいぶん大きくなってから「(今年のことはしっかり片付けて)よい「くる年」をお迎えください。」という意味だと知りました。だけど私は、残りの本年も、続いていく来年も、きっとよいことがあって、ずっとよい年になりますようにという気持ちで挨拶したいと思っています。心が温まる魔法の言葉です。子どもたちと、子どもたちを取り巻く私たち大人、このメンバーにめぐりあえた奇跡に感謝しています。皆様どうぞよいお年を!